

サンゴのリーフ エメラルドグリーン

「パナウル」は「花とサンゴ」という意味だ。36人目の観光大使となった松岡さんは「与論島の魅力は人の良さと海の美しさに尽きる。多くの人に足を運んでほしい」と話している。

優しさに魅了されて島通いを続けており「自然の美しさを守り、魅力を多くの人たちに伝えて島のPRに貢献したい」と話している。

【佐藤敬一】

小倉北区京町で沖縄料理店「シーサー屋」を経営する松岡孝之さん(53)が、鹿児島県の離島・与論島の観光大使に任命された。約15年前に初めて訪れて以来、海の美しさと地元の人

美しさ守り 魅力PR

与論島は鹿児島県最南端に位置し、沖縄本島まで約23キロという人口約5400人の離島。空手の新極真会福岡県支部緑道場の相談役も務める松岡さんは約15年前の夏、島出身

沖縄料理店の松岡さん

与論島観光大使に

の生徒から「ぜひ行ってください」と勧められて初めて島を訪れた。マリンスポーツが大好きで、沖縄の海などにも何度も足を運んでいた松岡さんだった。

なく、外から来た人たちを分け隔てなく歓迎する島人の温かさにも魅了されたという。以来、毎年1〜3回は訪れるようになるなど与論に惚れ込んでいた。

10月、社員旅行で与論島の海の見聞に驚かされた松岡さん。帰りに

周囲約23キロの島全体がサンゴのリーフに囲まれ、海はエメラルドグリーンに輝いていた。「沖縄にもない自然の美しさだけで



田畑克夫・ヨロンパナウル王国大統領(左)から委嘱状を受け取る松岡さん(右)＝ヨロン島観光協会提供